

の報告者で第4回にも論文を発表しているのは11人で、そのうち4つの論文は同じテーマの研究である。交通流理論は新しい学問であるが、当初に定めたいくつかの路線に沿った研究からなかなか離れられず、microscopic な研究は膠着状態に陥っているような印象を受ける。macroscopic なものと microscopic なものの接点もしっかりしないようである。交通流理論に関する研究が進みつつある方向をみきわめるのは、この報告書からだけでは困難であ

ろう。

今年は第5回の国際シンポジウムが開催される年にあたっている。6月16日から18日までカリフォルニア大学でひらかれることになっており、そこでは、ハイウェイの自動化をはじめとする新しい話題や、交通流理論を根本から考え直した論文が発表されることを期待したい。交通流に関する最初の論文が Wardrop によって発表されてから、20年目のシンポジウムである。(奥平耕造)



九州支部

1. 45年度活動状況：支部の活動は、主として九州OR共同研究会・福岡地区OR研究会での経験交流と支部報「OR九州」の発行が中心です。

1-1 九州OR共同研究会

(参加会社) 新日本製鉄, 住友金属小倉, 九州電力, 新日本製鉄化学工業, 安川電機, 西日本鉄道, 三菱化成, 黒崎窯業, 日本板硝子
(期日) 年に4回(2月, 5月, 8月, 11月開催)
(運営) 幹事会社輪番制. 幹事会社中心の事例研究で経験交流. 出席人員は30~40名
(今年度の事例)

1. 鋳型管理システムの設計について
2. 製鉄業における原料問題と今後の対策
—以上 新日本製鉄—
3. 新設工場稼働にともなうディーゼル機関車運搬の合理化
4. 庫手の要員設定
5. 鋼塊, 鋼片適正在庫量の設定とその運営方法の検討
6. 自主管理活動による PERT 活用による分塊ロール組替時間の能率向上
7. 分塊工場均熱炉操業計画システム設計について
—以上 住友金属小倉—
8. RS (レポートニング・システム)
9. 九州地域計量経済モデル—以上 九州電力—
10. タンカー輸送体制の検討
11. 新日鉄化学における電子計算機活用状況について
12. 最適生産計画の検討

—以上 新日本製鉄化学工業—

1-2 福岡地区OR研究会

(参加会社) 九州電力, 西日本鉄道, 西部ガス
(期日) 年に4回(3月, 6月, 9月, 12月開催)
(運営) 幹事会社輪番制. 参加各社1事例発表による経験交流. 出席人員は15~20名

1-3 支部報「OR九州」

年4回の発行を堅持しています。現在のところ、賛助会員会社、支部役員の投稿により発行されていますが、加えて個人会員との交流の場として活発にしたいものです。そのためには、個人会員の投稿をいかに獲得するかが、今後の課題です。

1-4 支部の行事

- 総会(講演会を兼ねる), 運営協議会1回です。
2. 46年度活動計画：本年度も、活動の中心は、九州OR共同研究会, 福岡地区OR共同研究会, 支部報「OR九州」の発行です。とくに「OR九州」では個人会員との積極的交流につとめる方針です。

九州支部活動スケジュール

46. 4	「OR九州」 12号	九州OR (安川電機) 福岡OR (西日本鉄道)
5		
6		
7	「OR九州」 13号	九州OR (西日本鉄道) 福岡OR (九州電力)
8		
9		
10	「OR九州」 14号	九州OR (三菱化成) 福岡OR (西部ガス)
11		
12		
47. 1	「OR九州」 15号	九州OR (黒崎窯業) 福岡OR (西日本鉄道)
2		
3		

(吉村博之)